

対外活動

「第一回大学等廃棄物処理施設協議会」の報告

表題の全国会議は、昨年まで「国立大学等廃液処理施設連絡会」と呼ばれていたものが、昭和58年度において正式に文部省所管の扱いを受けるようになったものである。ここに至るまで足掛け5年かかっているが、発足当初は会員も国立大学の教職員のみで構成されていたものが、国立研究機関、公立大学教職員を加え、さらに研修会には処理設備のメーカーの方々も参加する形へと変遷してきている。

センター報第5号でも速報として報告したように、58年11月18日に神戸大学の主催によって開かれた発足総会において、本学環境管理センター長の高橋照男教授が初代会長（58～59年度）に選任された（役員名簿参照）。各大学での廃棄物処理の実態がまちまちで、しかも将来に向かって管理運営・処理技術・環境科学教育ならびに研究の機能などの充実が全国的に叫ばれている時期であり、岡山大学での約10年間にわたる廃液・排水処理対策の着実な進展が評価されたものと受け止めている。

大学等廃棄物処理施設協議会

第一期（昭和58～59年度）役員名簿

会 長	高 橋 照 男	（岡山大学工学部教授）
副 会 長	谷 口 宏	（九州大学工学部教授）
副 会 長	山 田 浩 司	（神戸大学理学部教授）
常 任 理 事	白 須 賀 公 平	（東京大学環境安全センター助教授）
理 事	村 上 忍 三	（信州大学医学部教授）
理 事	高 月 紘	（京都大学環境保全センター助教授）
理 事	正 藤 英 司	（広島大学工学部助手）
監 事	西 村 重 夫	（東京農工大学工学部教授）
監 事	村 山 桂 太 郎	（千葉大学施設部設備課長）

処理に携わる教職員の技術研修・情報交換の場としての研修会兼総会が年1回開催され、研修会で提供された話題を中心にまとめた成果集が毎年会報の形で発行されている。これらは現時点で各大学の処理施設がかかえている諸問題が浮きぼりされたものとして、大きな意義をもっており、処理施設の改善・発展のため貴重な資料といえよう。

参考のため、59年3月に刊行された「大学等廃棄物処理施設協議会会報第一号」の目次を転載し、当センターにかかわる情報としてフィードバックしておきたいと思う。今回特に注目すべきことは、

協議会で廃棄物処理全般を手掛けるようになったため、水銀汚染源として現在注目を集めている蛍光灯や乾電池などの回収処分についての東京大学での実施例が紹介されたことである。本学でも、しかるべき機関（委員会）でこの種の問題を早急に議論し、方向付けしていく必要があるように思う。

目 次

ごあいさつ	1
大学等廃棄物処理施設協議会 会長 高橋照男	
1. 東大における水銀を含む廃棄物の別途回収について	2
東京大学環境安全センター 五百川裕弥, 早野茂夫, 白須賀公平	
2. 岡崎国立共同研究機構における廃棄物処理について	7
基礎生物学研究所 本多八郎 分子科学研究所 高谷秀正 生物学研究所 大平仁夫 管理局 佐藤昇一	
3. 廃液処理施設の歩みと現状	11
島根大学排水処理施設主任 伊達善夫	
4. 埼玉大学廃液処理施設について	15
埼玉大学工学部 三田村 孝, 飯田武揚, 奥墨 勇	
5. 室蘭工業大学における実験廃液処理の現状について	20
室蘭工業大学 太刀川哲平, 遠藤健二, 加藤清敏	
6. 廃水処理施設を活用した環境科学教育について	24
岡山大学環境管理センター 森分俊夫, 伊永隆史, 高橋照男	
7. 東京大学における廃棄薬類の回収, 処理について	30
東京大学環境管理センター 鈴木良實, 白須賀公平, 早野茂夫 野村興産株式会社 安藤直樹	
8. 京都大学における食堂排水の対策	36
京都大学環境保全センター 高月 紘, 来田村實信, 片柳健一	
9. 大学排水中のノルマルヘキサン抽出物質問題について	40
京都工芸繊維大学 廃液処理施設 山田 悦	
10. 医療系廃水ならびにその他の排水中のリン吸光度法および高速液体 クロマトグラフィーによる定量法の比較	43
浜松医科大学廃棄物廃水処理センター 門畑一久, 桜井信夫, 一瀬典夫	
11. ホルマリンを含有する廃標本浸液の過酸化水素水による処理法について	46
神戸大学水質管理センター 山田浩司, 長岡健二, 越智基久, 斉藤恵逸	
解 説 最近の化学物質による水質汚染の動向	49
神戸大学医学部 住野公昭	
会 務 報 告	55
総 会 報 告	55
研 修 会 報 告	56
S 814 シンポジウム	57
第一回大学等廃棄物処理施設協議会出席者名簿	58
大学等廃棄物処理施設協議会会則	60
大学等廃棄物処理施設協議会入会ご案内	62